



平成26年11月20日  
内閣府（防災担当）

## 民間船舶を活用した医療機能の実証訓練について

大規模・広域災害が発生した場合の災害医療における海からのアプローチについて、その有効性や運用に当たっての課題を明らかにするため、医療資機材を搭載した民間船舶を用いた実証訓練を行います。

### 1. 日程

11月25日（火）11：00～17：00を予定

### 2. 場所

東京港 晴海ふ頭訓練会場に停泊する民間船舶「はくおう」内

### 3. 主な内容

#### （1）訓練の想定

東京都区部直下を震源とする首都直下地震（最大震度7）の発生を想定。

#### （2）訓練の概要

ふ頭に停泊する民間船舶への臨時医療施設の設置を想定し、船内での医療資機材の展開、船への患者搬送、船内での模擬診療などを行うとともに、各場面について有識者による点検を行う。（別紙1）

### 4. 参加機関等

- ・ 内閣府、厚生労働省、国土交通省、海上保安庁、防衛省
- ・ 東京都
- ・ 東京 DMAT
- ・ 東京都医療救護班
- ・ 日本赤十字社
- ・ 有識者 等

## 5. 取材について

(1) 実証訓練は取材可能です。

訓練会場へは原則として入場登録等の事前手続が必要となりますので、取材を御希望の場合は、11月21日(金)17時までに内閣府担当者へ電子メールにて、①社名、②人数、③代表者氏名、④代表者の当日連絡先を御連絡ください。

(2) 訓練会場への交通は別紙2を御確認ください。

(3) 船内での取材対応に当たっては、現地担当者の指示に従ってください。

(4) 取材される方は、社名入りの腕章を着用してください。

## 6. 本訓練に係る記者説明会

本訓練に係る記者説明会を以下のとおり開催いたします。

- ・説明日時 11月21日(金)13時30分より
- ・説明場所 中央合同庁舎第8号館1階S101記者会見室

## 7. その他

内閣府西村副大臣の視察を予定。

(11:45メドでぶら下がり取材)

## <参考>

災害医療における海からのアプローチについては、平成24年度、内閣府において「災害時多目的船(病院船)の調査・検討」を行い、当面、既存船舶を活用した実証訓練により課題を明らかにすることも有効な方策の一つとしたところ。

これを受け、平成25年度には、政府所有船、平成26年度には民間船舶に医療資機材を搭載した実証訓練を実施し、その有効性や課題を検証することとしている。

### <本件問い合わせ先>

内閣府政策統括官(防災担当)付

参事官(防災計画担当)付

参事官補佐 酒井 貴司

主 査 大西 昌尚

TEL : 03-3501-6996(直通)、FAX : 03-3581-7510

### <訓練当日連絡先>

大西 : 090-3143-2637

訓練の流れ	
	設営等準備
11:00	船内医療施設運営に係る実証訓練（超急性期 <sup>※1</sup> ） <ul style="list-style-type: none"><li>・ 傷病者（模擬患者）の船への搬送、模擬診療、移送検討</li><li>・ 有識者等による点検</li><li>・ 参加機関 関係省庁、東京都、東京DMAT、日本赤十字社等</li></ul>
12:30	訓練振り返り
	設営等準備
15:00	船内医療施設運営に係る実証訓練（急性期 <sup>※2</sup> ） <ul style="list-style-type: none"><li>・ 在院患者（被災病院）の船への搬送、模擬診療、移送検討</li><li>・ 有識者等による点検</li><li>・ 参加機関 関係省庁、東京都、東京都医療救護班、東京DMAT、日本赤十字社等</li></ul>
16:30	訓練振り返り
17:00	終了予定

※1：発災6～72時間（東京都のフェーズ区分による）

※2：発災72時間～1週間（                    "                    ）

## 訓練会場案内

- 訓練会場へはマイクロバスで御案内いたします（10:10発、14:10発の2便）ので、晴海客船ターミナル（1階エントランスホール前）にお集まりください。  
バスが訓練会場に到着後、訓練開始までの間に、会場内にて取材方法等の御説明をいたします。  
訓練の円滑な実施と安全確保のため、基本的に訓練途中の入退場はできませんので、御協力をお願いします。
- 当日は、取材に適した動きやすい服装・靴でお越しください。

### (晴海ふ頭位置図)



### (訓練会場位置図)



#### (晴海客船ターミナルへの行き方)

バスの場合：晴海埠頭行き、終点下車

(晴海客船ターミナル横に到着します。)

都03 四ツ谷駅発（半蔵門、銀座四丁目経由）

都05 東京駅丸の内南口発（数寄屋橋、勝どき駅経由）

都13 錦糸町駅発（豊洲駅経由）

車の場合：銀座4丁目交差点より約15分

(訓練会場西側の「晴海客船ターミナル」1階の駐車場

(有料)を御利用ください。)

## 平成24年度「災害時多目的船（病院船）に関する調査・検討」 報告書（内閣府（防災担当））の概要

### 1. 調査目的

東日本大震災の教訓等を踏まえ、大規模・広域災害における海からのアプローチの防災対策である災害時多目的船について、特に医療機能に焦点を当て（病院船）、その導入可能性を検討する。

### 2. 調査方法

病院船の機能・規模を3類型（ア．総合型病院船、イ．急性期病院船、ウ．慢性期病院船）に分けた上で、

- ① 費用（建造費、維持・運用費）の推計
  - ② 導入の課題
  - ③ 平時活用の可能性
  - ④ 民間資金等の活用の可能性
- について整理。

調査に当たっては、災害対策全般、災害医療、造船、海運、医療資機材、国際貢献、離島医療、地方公共団体等の多分野にわたる有識者からのヒアリングを実施。

### 3. 報告書のポイント

#### （1）病院船の新造

- ① 費用  
建造費：140～350億円／隻、維持・運用費：9～25億円／年。  
また、災害時の迅速対応に最低2隻必要（280～700億円）。
- ② 導入の課題  
迅速対応・長期派遣が可能な多数の医療スタッフ（病床500→医師等500人）の確保が必要等。
- ③ 平時活用の可能性  
船舶の装備・仕様の相違等から、離島巡回医療船、国際青年交流船等の平時活用の可能性は低い。

#### （2）既存船舶＋医療モジュール

民間船舶をチャーターし、医療モジュール（急性期医療対応型）を搭載した場合に、モジュール購入費、チャーター費で18億円。この場合も、医療スタッフの確保等の課題が存在。

#### （3）総括と今後の方向性

- ・病院船の建造は、建造費、維持・運用費に莫大な金額を要する見込み。また、医療スタッフの確保等の困難な問題が多数存在。
- ・3類型の病院船のうち、急性期病院船は、民間旅客船や自衛艦等の既存船舶（＋医療モジュール）の活用により費用の縮減が可能となり、導入に向けた検討に最も値するもの。
- ・当面、既存船舶（＋医療モジュール）を活用した実証訓練を行い、課題を検証することも有効な方策の一つ。